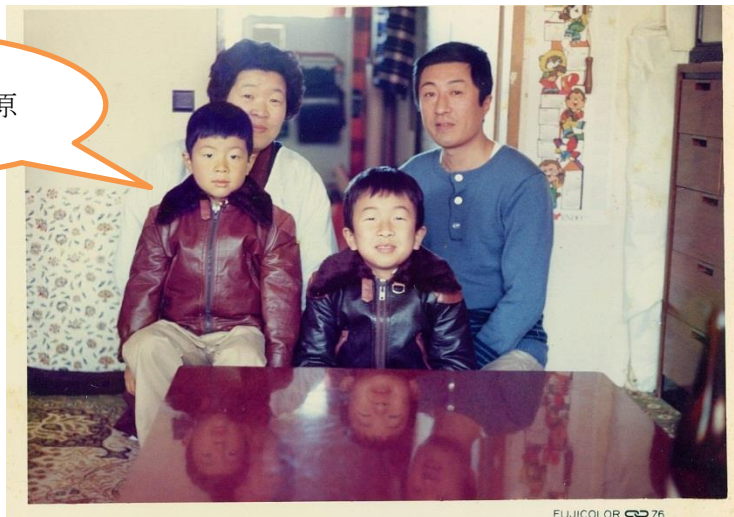


# (株) リフォームダイレクトの小笠原功二とは？

今から48年前、1970年宮城県岩沼市にて生まれる、製紙会社の工場に勤める父と専業主婦の母、4つ違いの兄と4人家族。父が勤める製紙工場の社宅で暮らしていきまして、ごくごく一般的な家庭だったと思います。

当時5歳の小笠原



(約43年前 宮城県岩沼市の社宅にて 唯一家族4人で写った写真)

## 私が5歳のころ、私たち家族はたった「1日」不幸のどん底に落ちました・・・

父と母は、念願のマイホームを田舎の郊外に新築中で、毎日出来上がる家を楽しみにしていました。

そんな矢先、お昼まで元気だった父が「突発的な脳の病気」で、倒れたその日に亡くなりました。

突然すぎて泣き崩れている母、病院の冷たい椅子、大人たちがこわばった顔で話している姿・・・どうしていいのかわからず、兄と2人、怖くて震えていた事だけは鮮明に覚えています。

悲しみに暮れる間もなく、母は私たち兄弟を食べさせて行かなくては！と、毎日遅くまで無理をして体を壊しながらも、なりふり構わず働いて育ててくれました。

## 地震で家が・・・

幸い家だけは最後まで出来上がり、父が私たちに最後に残してくれたものが「家」になりました。この家は、私たち家族の唯一ホッと安心できる「心のよりどころ」でした。

学校中で「母子家庭」は私だけ、家だけはありましたが、正直裕福ではありません。

新築だった家も、昭和53年の「宮城県沖地震」に襲われ、家の壁や塀に、子供ながらにも

「・・・これはどう考えても危ない！」と感じる大きな亀裂が入り、それを機に「雨漏り」しだし家はどんどん傷んでいきました。(今思えば、瓦屋根がずれていたのでしょ・・・)

しかし男手がなく、細々と生活している我が家では、壊れた家を直すことが出来なかったのです。

母子家庭だから、「だまされるのではないか?」「知らない怖い人におどされたらどうしよう?」完全に社会的弱者の我が家は、修理の人を呼ぶこともできず、ずっと壊れたままで我慢していました。

いつも、恐怖と不安におびえて生活していたのです。

## プライドを捨てた男・・・

小学校6年生の作文で、なりたい職業は「大工の社長」と書きました。傷んだ家を自分の手で直したかったのです。後に私がリフォーム屋になった理由です!

田舎の工業高校を卒業し、18歳で一人東京に出てきました。就職先を決めた理由は、「社員寮」があって住み込みで働けることだけ!

寮費は5千円。時代は「平成」になっていましたが、東京で「たった家賃5千円」で住めて働けるありがたい所は、ここ以外ありませんでした。

「深夜の労働」「粉塵がマツ毛に降り積もる過酷な現場」「汚くて、臭くて、危険な仕事」・・・誰もが嫌がる仕事でも、食べていくにはプライドなど捨てて、何でも選ばずにやってきました。



そのおかげで、家やマンションなどが「どのように建っていくのか?」という構造がわかる現場、様々な職種の職人さんに出会うことができ、何より工事現場で「プロの職人の仕事」を見て覚えることができたのです。一流の腕を持った職人仲間もたくさんできました。

頭は悪かったのですが、現場仕事が終わってから勉強。学生の時よりよっぽど勉強しました。

電気・ガス・水道工事の国家資格をはじめ、リフォームするために必要な資格を取得し、今では傷んだ家の塗装工事、お風呂やキッチン・トイレの交換工事でも、大工工事や内装工事、どこに頼んでいいかわからないような事でも、家のことなら何でも出来るようになりました。

念願だった母が住む家も、幾度となく自分で手直ししてあげる事が出来るようになりました。



(リフォーム工事をするための国家資格は、すべて持っています！)

## その後、母は・・・

今、母は長年の苦勞がたたってか、「中途視覚障害者」になってしまい、ほとんど目が見えません。一人でごみ出しにすら行けない状態です。

お風呂でもトイレでも、どこでも伝って歩ける「手すり」に始まり、段差で転ばないように「安全対策」を施さなくてははいけません。火災警報器や防犯対策には、普通の人のお2倍気を使います。

リフォームは、そこに住んでいる方に合わせた物であるべきだと思います。  
そして、健康で安心して暮らせるように考えた物であることが望ましいと思います。

しかも、昔お金がなくて家を直せなかった事、どんな人が来るのか解らず怖かった事、「だまされるのではないかな？ぼったくられるのではないかな？」いろんな心配をしていた自分たちの体験から、今リフォーム屋として初めてお客様に接するのにあたり、心に決めていることがあります。

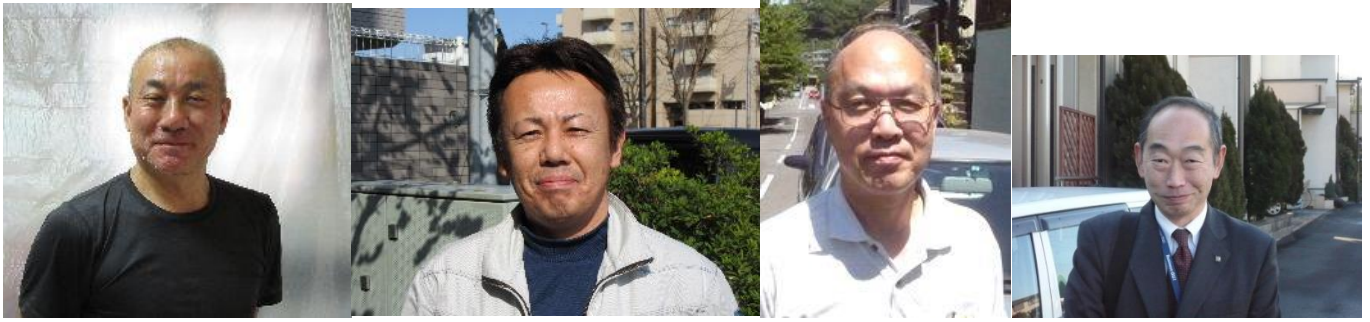
それは・・・

- このような自己紹介用紙をお配りし、私という人間を少しでも知って安心してもらう事
- 無理な押し売りは一切なし！ どうすれば安くできるか？不安や疑問がなくなるまで打ち合わせをする事
- 住む人が一番得をするような考えで、健康で安全に暮らせる提案をする事。を徹底しているのです。

私達の会社は、最初の打合せ見積りからの段階から出来上がるまで、**全て小笠原が担当しているのだからお医者さんの様に、一生担当責任者が変わりません。**

仲の良いスタッフと問屋・メーカーさんと一緒になって**「作品を作る気持ち」**で作業しています。

お客様と「施工者」が直接やり取りをさせていただく事で、施工者が満足いく仕事をする事が出来るから、保証も付けることが出来るのです。 お客様とダイレクトに接することが出来る仕組みが「小笠原流のリフォーム」なのです。 (社名：リフォームダイレクトの由来です)



(組み立て屋さんの野口さん・中西さんコンビ・サッシの佐竹さん・メーカーの柴山さん)

## リフォームは、作業する人の気持ち大切です。

テレビやマスコミで取り上げられる「手抜きリフォーム工事」は、いまだにあります。同じ業界でやっているものとして、心が痛む思いがします。

私は、勇気を持って問い合わせ・相談して下さるお客様をととても大切にしています。初めて業者とお話する方が非常に多いので、「電話して本当によかったのか?」・「どんなことを話せばよいのか?」など、本当に心配事が多いことがよくわかります。

だからこそ、仕事を頼んで下さるお客様へは、お気持ちに答えるべく、なんでも相談にのって差し上げて、できるだけ不安や疑問に思っていることを一つでも多く解決させていただきますが、**私からも、気が付いたことやプロの目で見たと、あなたが得をするご提案もさせていただきます。**

決して、しつこい売り込みや、嫌がらせのような営業方法は取っておりませんので、ご安心してなんでもお気軽にご相談してください。

最後に、あなたのリフォームが「あなたとご家族のために」意義ある素晴らしいリフォームになりますようお願いしております。そのお手伝いが私たちで出来れば、最高にうれしいです。

東京都多摩市在住、家族は妻と、社会人4年目の長男と大学2年生の次男  
たれ目で、たらこ唇。趣味は幼少の頃からやめられない魚釣り！  
座右の銘は「目は高く・心は広く・腰低く」

今まで張り替えてきたクロス量は、富士山の14.9倍ほどの長さを張り替え、骨折したままでも3階建ビルの塗装工事を完了。現場帰りに高速に乗り、生まれ故郷の宮城県岩沼市の被災地に野宿して4日間のボランティア活動で、仮設住宅にお住いの方に涙ながらに喜ばれる。

内なる闘志は熱いが、腰が低い筋金入りの48歳。

(株) リフォームダイレクト 代表取締役 **小笠原 功二**

